

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の

ほう ちゅう かん あん ちゅう めい

“忙中開あり暗中明あり”

その⑯

かざばな
～ 風花～

風のない晴れ上がった空から、花びらのように舞い落ちてくる小雪のことをいいます。

「風花」というのは、遠くの山で降っている雪が、強風に飛ばされ運ばれてきて、舞い散るさまが、まるで花びらのように見えることから、そういうようです。

気象的には雪の日に数えられ、風花が舞うということはそれだけ寒さが厳しいということにほかなりません。

はらはらと舞い、降りかかるともなく消える夢さと、美しい語感から、昔から、俳句や和歌、詩、歌などにもよく使われてきました。

それにしても、雪を花にたとえて「風花」と呼ぶ、その纖細で美的な言語感覚には脱帽です。

冬ながら空より花の散りくるは

雲のあなたは春にやあるらん

(清原 深養父)

能代市長 齊藤 滋宣



1月5日、
能代市消防出初式
(三ツ井駅前通り)で。